春興

竹の葉にしられて梅の薫りかな　雄上齋

かしこや麻覚の枕肴たるし　鈍ク

町中や咲まつゝく色しうせの蝶　二春

たはろ籔れ月に見あくる大手かな　敬市

重りし山にかさなるかすミの杉　春呉

暖や松もなれてもお伴綾月　螢車

山寺は一籔霞くみえたるの面　雄波

梅ヶ香や此ちらくおくも猿月　嵐丈

仄なる谷智の梅や底まゐ川　玉石

えつ海乃れほろとかれハ丁の音　斗醉

山坂や咲松おる苗代田　和好

鶯や覚就まつは游の水　射水

うけるふや山田耕を鍬は先キ　楚吟

春風や日ハ照まする白川原　琢良

丞に咲風まめぐるやうをなむり　國馬

ちるやいろに手鏡のをくつれ辞摺　トヤマ 朶枝

みるゝ色ても来しまぬれハ鶯の
いとめつらしきまとも雲かな　女 千世

膝碍やみ籔散てれほろ月　會甫堂 周來

陽炎や枯芝就咲風もなし　建山下 青河

申九和し